

武雄市文化会館大ホール整備方針の見直しについて（案）

武雄市文化会館は、令和 5 年 3 月に策定した基本計画に基づき、新たな文化交流施設エリアとして整備を進めています。

新文化交流施設については、成人棟・集会棟・小ホール棟の解体後に建設を行い、令和 9 年春頃の開館を目指し計画どおり整備を進めています。

大ホールについては、改修による長寿命化を図る計画としていたが、概算工事費が物価高騰などにより大幅に増額となることなどを踏まえて、整備方針の見直しを行うこととした。

1. 武雄市文化会館大ホール整備にかかる経緯

- ・令和 2 年 8 月策定の公共施設等個別施設計画で、「大ホールは耐震補強工事をはじめとして長寿命化に必要な改修を行っていく」と明記。
- ・令和 3 年度に「大ホールについては機能維持程度の改修、新文化施設については建替え」と整備方針を決定。
- ・令和 5 年 3 月にエリア全体の整備に係る基本計画の策定を行い、総事業費を 55 億円程度と想定。

2. 整備方針の見直しの検討について

整備方針の見直しにあたり、事業費高騰による財政負担、大ホール棟の利用状況などの背景を踏まえ検討を行った。また、個別施設計画を策定した際に開催した市民会議や文化団体など関係団体、市民の方から意見聴取を実施した。

○見直しに係る背景について

① 大ホールの利用状況

- ・大ホール稼働率について H20 50.4% ⇒ H30 42.1% ⇒ R5 31.1% と減少。
1000 人以上のイベントについても H30 28 件から R5 9 件と大幅に減となっている。

② 近隣・周辺自治体の施設整備状況の変化

- ・県西部近隣 20 km に 1000 席を超えるホールはないが、周辺自治体では令和 2 年度の個別施設計画策定後、令和 5 年度に SAGA アリーナ(約 8400 席)や鹿島市民文化ホール(約 800 席)が開館。

③ 整備に係る総事業費高騰による財政負担

- ・大ホール改修費が当初想定 20.9 億円より高騰し 29.3 億と大幅に増額の見込みとなる。これらを踏まえて総事業費が当初想定 55 億円から 69.3 億円と大幅に増額の見込みとなっている。加えて、改修後 30 年間の利用にあたり、修繕費が 12 億円程度必要となる。

3. 見直しによる新たな整備方針案について

大ホールについては、地域のシンボルとして機能維持程度の改修により、新施設と一体的な利用を図る方針としていたが、想定を超えた改修費の高騰及び今後 30 年の利用を図るにあたり、相当な維持管理費がかかり、市の財政にも大きな負担となる。

また、近年周辺市町に同規模程度の機能を有する施設が開館しており、稼働率の低下が見込まれる。

これらを踏まえて、大ホールについては、「長寿命化」の方針を見直し、「廃止・解体」とする。

なお、大ホールがこれまで担ってきた役割については、文化施設に限らず、他の公共施設の活用及び必要に応じて機能強化を図っていくことで対応したい。

4. これからの武雄の文化活動について

文化のまちづくり構想では、より身近な場所で文化を親しむことができる場の充実を図ることをうたっており、今後は更にそれを加速化させていく必要がある。

新たな文化の創造や出会いを生み出す新文化交流施設において、これまで文化活動に関わりのなかった人や若い世代に文化に触れ、楽しんでもらえる環境づくりを行うとともに、文化施設に限らず市内の他の公共施設において、大規模な催しを開催できるなど各施設の特性を活かしながら積極的に利用し、必要に応じて機能強化を図っていく。

これからは新文化交流施設を拠点にまち全体をステージとして捉え、創造・活動の場、交流の場となるよう広げていくことで、武雄の文化活動を更に発展させていきたい。